

令和8年度 殖蓮小学校 学校教育方針

1 学校の教育目標

(1) 基本目標

知・徳・体の調和がとれた、実践的で豊かな人間性を育むため、次のように教育目標を定める。

- ① 自ら考え正しく判断し、主体的に活動できる子供の育成 (知)
- ② 自然と人間を大切にする、心豊かな子供の育成 (徳)
- ③ 健康で、何事にもねばり強く挑戦できる子供の育成 (体)

(2) 具体目標

児童像	具体的児童像
① よく考える子 (知)	真剣に学習に励み、物事を深く考え正しく判断し、生涯にわたって学ぶための基礎・基本を身に付けている子
② 思いやりのある子 (徳)	人の喜びも自分の喜びも大事にし、優しい心を持ち、相手の気持ちになって行動できる子
③ やりぬく子 (体)	健康に留意し、たくましい心とからだを持った、何事にもねばり強く取り組める子

2 経営方針

(1) 学びをつなげる

- ・児童が主体の授業づくりにより「できる喜び」「分かる楽しさ」を実感させる授業を展開する。
- ・児童が交流し合い、学び合う楽しさを味わわせ、学ぶ意欲を喚起する。
- ・「めあて」と「振り返り」を大事にし、学んだことや成長を実感させる。
- ・授業と家庭学習や生活をつなぎ、生涯にわたって学び続けることのできる資質や能力を育む。

(2) 心をつなげる

- ・児童一人ひとりの個性を認め、心が通い合い居場所のある温かい学級・学校をつくる。
- ・「ほめる」「認める」「励ます(見守る)」を基本とし、自己有用感を醸成し、「この学校に通いたい」「この学校に通わせたい」「この学校を応援したい」と思える学校にする。
- ・学校と児童の発達を支える専門職や関係機関と連携し、心豊かで健やかな成長につなげる。

(3) 未来へつなげる

- ・体育授業や体育的行事集会、外遊び等で運動に親しませ、たくましい体を育成する。
- ・豊かな体験活動を通じて、自らの責任を果たし最後までやり抜くたくましい心を育む。
- ・我が故郷に誇りをもつとともに、自分の生き方や未来を創造する力を高める。

(4) 保護者や地域とつながる

- ・保護者へのきめ細やかな連絡や対応により、良好な関係(信頼関係)づくりを心掛ける。
- ・対応は、「迅速」「真摯」「丁寧」に。生徒指導は「さしすせそ」を確実に行う。
さ(最悪を想定し)し(慎重に)す(素早く)せ(誠意をもって)そ(組織的に)
- ・健康や安全に関する指導と管理を徹底し、子供たちが安全安心に生活できる環境を整備する。
- ・保護者や地域との双方向のつながりを大事にし、開かれた学校づくりを推進するとともに、子供たちの学びと成長する姿を支援(共有)するよきパートナーとしての関係を構築する。

(5) 管理職や学年につなげる

- ・小さなことでも一人で抱え込まず、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。
- ・異変や違和感を見逃さず、未然防止や迅速かつ適切な初期対応、再発防止につなげる。
- ・生徒指導や保護者対応、並びに公金や個人情報の扱いは複数対応とダブルチェックを徹底する。

3 本年度の努力点

(1) 確かな学力の向上

- 子供の言葉を基にした「めあて」と「振り返り」の充実。（前時までの学びや子供の声を取り入れながら、子供と一緒に、必要感のあるめあてを考えること。各教科等で育む力に対して指導観を明確にもち、子供が学びを自覚できる振り返りの機会を設定すること。）
- ねらいを達成した児童の姿を明確にし、児童の学びの質を高め全職員で共通課題に取り組む校内研修の推進。

(2) 豊かな心の育成

- 様々な教育活動の中で「ほめる・認める・励ます（見守る）」支援で子供の自己有用感を育むとともに、支援方針のもと自分らしさを大事に自律的に行動できる児童の育成。
- 特別支援教育の考え方を基盤とする個別の支援を充実させ、個性を認め合い、高め合う態度や学び合える児童の育成。（インクルーシブ教育の推進）
- 日常生活習慣や学習規律に関する指導の徹底。（学年毎の『当たり前』具体化と周知）

(3) 共生社会を創る力の伸長

- 学校保健活動の充実（緊急時対応・健康観察・保健指導等）、食育、安全・安心を守り抜く健康教育（生活安全・交通安全・災害安全等）を推進し、心身ともに健康でやりぬく子を育成。
- 夢や希望をもたせる「未来力」学習講座やキャリア・パスポートの活用、地域人材との連携。
- 地域行事等への子供たちの参画を促し地域の一員としての自覚をもたせ、ふるさとへの誇りや愛着心を育み、よりよい地域社会を創ろうとする意欲をもつ児童の育成。

4 具体的な職務等の指針

(1) ゆとりを生む業務改善の推進

- ◎児童と向き合える時間やワーク・ライフ・バランスを意識した更なる業務改善の推進。
 - 子供たちに豊かな学びを届けるために教職員の私生活の充実・働きがい・健康を大切にしたい子供たちと教職員が生き生きと学び合える学校を実現する。
 - 水曜日を「17:00 まで」退庁とし、退庁時間を意識した各自の業務コントロールの意識徹底。
 - 提案内容の重点化と協議事項の明確化による会議の効率化。（勤務時間内終了）
 - C4t h を効果的に活用し、会議の短時間化や学級事務等の時間を生み出す。
 - 職員組織の協働性を高めるとともに、情報化推進による業務の精選と効率化を図る。

(2) 日常の危機管理

- ◎リスクマネジメントの視点に立って、日常の中で危機管理意識をもって教育活動にあたる。
 - 管理職への「報告・連絡・相談」の徹底を図ると共に、全教員で必要な情報は常に共有する。
 - 生徒指導や保護者の対応等は初期対応が重要であり、初動の判断を迅速・丁寧・的確に行う。
 - 対外的な各便り等の配布物は事前に教頭の確認を経てから発行し、校長へも提出する。
 - 安全計画やマニュアルに沿った自己指導力を高める安全指導や、施設設備や通学路等の安全点検を徹底するとともに、保護者や地域との連携による危機管理への体制を整備する。
 - いじめや不登校、虐待等の未然防止や早期対応等、安心安全確保に向けた取り組みの充実。

(3) 信頼される教師・学校

- ◎服務規律を確保し、地域、保護者、児童から信頼される学校づくりを推進する。
 - 教育公務員としての自覚をもち、勤務時間内外を問わず自らの言動には責任をもち。
 - 生徒指導時だけでなく称賛に値する行動等は積極的に伝えるなど、保護者との情報交換は密に行い良好な関係を築く。

(4) 明るく風通しのよい学校・職場づくりを推進

- 全職員が心身ともに健康で、明るく笑顔で働ける楽しい学校づくりに努める。
- 職員間で何でも気軽に相談でき、率直に指摘し合える人間関係・雰囲気づくりに努める。
- キャリアに応じた自己研鑽に努めると共に、同僚性やOJT、メンター研修の効果を高め、やりがいのある職場づくりを推進する。